

第3次岡山県がん対策推進計画の 分野別施策の進捗状況

令和7年2月10日（月）

1 がんの予防

①たばこ対策の推進
【個別目標】 ・喫煙をやめたい人がやめることによって喫煙率を減少させ、未成年の喫煙をなくし、受動喫煙を防止する環境整備を行い、喫煙問題を改善することを目標とします。
【県の主な取組】 ・世界禁煙デー等の機会を捉えた普及啓発 ・たばこからの健康影響普及講座 ・敷地内全面禁煙実施施設認定事業 ・若者等への禁煙環境整備事業 ・受動喫煙防止セミナーの開催 等
【達成状況】 ・禁煙・完全分煙実施施設数については、認定数 3,000 件を目標としていたものの、健康増進法の改正により原則屋内禁煙が義務付けられたため、平成 30 年度に事業を廃止した。 ・成人の喫煙率について、直近（令和 3 年度）の調査結果では 12.8%であり、計画策定時の 16.7%より改善していたものの、目標値の 12.0%は達成できなかった。 ・未成年の喫煙率について、中学生及び高校生の男女いずれについても、直近（令和 2 年度）の調査結果では 0.1%であり、計画策定時の数値より改善していたものの、目標値の 0%は達成できなかった。
【今後の取組】 ・新たな喫煙者の増加を抑制するため、大学生等を対象とした出前講座の実施回数の拡充を行うとともに、医師等からの禁煙指導の促進を図るため、医療従事者対象の C O P D（慢性閉塞性肺疾患）研修を令和 6 年度から実施している。 ・また、令和 6 年度において、昨年度作成した受動喫煙防止を啓発する動画を活用し、SNS 広告による周知を行っている。 ・従来の取組に加え、こうした新たな取組を推進し、喫煙率の減少、受動喫煙のない環境づくりを目指すこととしている。

②感染症対策の推進
【個別目標】 ・肝炎の正しい知識の普及啓発やウイルス検査の実施、肝炎医療体制の確保等により、肝炎の早期発見、早期治療を行い、肝がんの発症を予防することを目標とします。
【県の主な取組】 ・地域肝炎対策サポーター研修会の開催及びサポーター養成 ・肝炎一次専門医療機関及び保健所における無料肝炎ウイルス検査の実施 ・B型・C型ウイルス性肝炎の治療に要する医療費助成（肝炎治療特別促進事業） ・肝炎ウイルス検査陽性者への検査費用助成（肝炎陽性者重症化予防推進事業）
【達成状況】 ・サポーター新規登録者数（令和5年度） 54 名 ・県内 108 箇所の肝炎一次専門医療機関や県内 9 箇所の保健所・支所で肝炎無料ウイルス検査を実施し、肝炎感染者の早期発見に努めた。 肝炎無料ウイルス検査実績（令和5年度）B型 463 件 C型 463 件 ・インターフェロン治療、インターフェロンフリー治療及び核酸アナログ製剤に係る医療費を助成することにより、早期治療の促進と肝硬変や肝がんへの進行の予防を図った。 肝炎医療費助成申請件数（令和5年度）1,720 件 ・肝炎ウイルス検査費用助成件数（令和5年度）45 件
【今後の取組】 ・本県においては、肝がんの死亡率が全国に比べ高い傾向にある。さらに、ウイルス性肝炎は自覚症状がないことが多いため、気づかぬうちに肝硬変や肝がんへ進行する感染者が多いことが問題となっている。このことから、肝炎患者を早期に発見するため、肝炎ウイルス検査の受検勧奨に取り組むとともに、肝炎陽性者フォローアップ事業の周知により、定期検査費用の助成制度の利用拡大を図り、適切な治療に繋げていく。

③生活習慣の改善
【個別目標】 ・がんと関連する飲酒、身体活動等の生活習慣を改善することを目標とします。
【県の主な取組】 ・精神保健福祉センターにおいて、大学や企業等に出向いてアルコール健康障害に関する出前講座を実施 ・市町村や健康づくりボランティア等と連携した運動習慣や適切な飲酒・食生活の定着に関する普及啓発
【達成状況】 ・生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の割合について、男性は、直近（令和３年度）の調査結果では目標値を達成したが、女性は計画策定時より悪化しており、目標値を達成できなかった。 ・日常生活における歩数について、いずれの年代及び性別においても、直近（令和３年度）の調査結果では計画策定時より悪化しており、目標値を達成できなかった。 ・運動習慣者の割合について、いずれの年代及び性別においても、直近（令和３年度）の調査結果では計画策定時より改善していたものの、目標値を達成できなかった。 ・適正体重を維持している人の割合について、いずれの年代及び性別においても、直近（令和３年度）の調査結果では計画策定時より改善していたものの、目標値を達成できなかった。 ・食塩摂取量及び野菜と果物の摂取量について、直近（令和３年度）の調査結果では目標値を達成できなかった。
【今後の取組】 ・令和６年度から新たに、自然に健康になれる食環境づくりに取り組む「からだ晴れ食サポート事業」を実施している。 ・普及啓発においては、「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023」や「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」等、国から示された最新の科学的知見も活用して、引き続き、運動習慣や適切な飲酒・食生活の定着を図る。 ・また、「おかやま健康づくりアワード」の開催等により、健康づくりに取り組む気運の醸成を図り、県民の生活習慣の改善を促す。

2 がんの早期発見

①がん検診の受診率の向上
【個別目標】 ・全てのがん検診の受診率（市町村、医療保険者及び全額自己負担実施分含む）を、いずれも 60%以上とすることを目標とします。
【県の主な取組】 ・愛育委員の個別訪問による受診勧奨 ・がん検診推進事業（国庫補助金）の実施等による受診率向上の取組 ・保健所による出前講座の実施 ・ラジオ、広報誌及びチラシ等での受診勧奨 ・国のがん検診の受診勧奨策等実行支援事業市町村向け研修会の開催
【達成状況】 ・男女ともに肺がん検診及び男性の胃がん検診、大腸がん検診、女性の乳がん検診は 50%を超えているが、他は 40%台であった。
【今後の取組】 ・本県のがん検診受診率は、いずれも全国を上回っている。しかし、いずれも受診率は 47%～57%であり、目標値の 60%は達成していない。 ・がん対策に関する世論調査によると、がん検診を受けない理由として、「受ける時間がないから」、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が上位を占めており、がん検診の重要性の理解を促進する必要がある。引き続き愛育委員や市町村と協働してチラシ等での受診勧奨やラジオ、広報誌等で普及啓発を行うとともに、今後は受診に行かない人の心理的バイアスに着目し、新しいアプローチで行動変容を促すナッジ理論を利用するなど、新たな手法を活用した受診勧奨にも取り組み、受診率の向上を図る。

②がん検診の質の向上
【個別目標】 ・市町村が行うがん検診の精検受診率を 90%以上とすることを目標とします。
【県の主な取組】 ・岡山県がん精密検診結果管理収集事業による精検結果の収集・分析 ・岡山県生活習慣病検診等管理指導協議会による精度管理
【達成状況】 ・乳がんのみ 90%を超えているが、他は約 70～80%台であった。
【今後の取組】 ・検診の実施方法や精度管理の在り方について、専門的な見地から適切な指導を行うため、岡山県生活習慣病検診等管理指導協議会各がん部会を設置し、毎年度、市町村が行うがん検診の精度管理の収集、評価とその公表及び評価に基づいた指導を行っている。 ・精度管理指標については、県全体では国が示す許容値をおおむね満たしており、精度の高い適正な検診が行われていると判断できるものの、個別目標である精検受診率 90%以上を達成できていないがん検診や市町村もあるため、今後も協議会各がん部会を通じて専門的な助言・指導を行う。また、がん検診の結果、精密検査が必要と診断された場合には、確実に精密検査を受診するよう、検診機関の協力も得ながら受診勧奨を徹底し、目標達成に向けて取り組む。 ・精密検診結果の収集、分析、市町村への情報の還元により、検診精度の向上を図るとともに、各がん精密検診機関の登録等を適正に行うなど、効果的な検診が行われるよう、体制の整備を図る。

3 がんの診断・治療に関する医療水準の向上

①がん診療連携拠点病院・地域がん診療病院・がん診療連携推進病院の充実・強化
【個別目標】 ・がんの診断、治療、緩和ケアについて切れ目のない医療が提供できるよう、拠点病院等や地域の医療機関、かかりつけ医の役割を明確にした体制整備を図ることを目標とします。
【県の主な取組】 ・国から直接補助を受ける岡山大学病院と岡山医療センターを除く6つの拠点病院と2つの地域がん診療病院への運営費の補助 ・がん診療連携協議会及び各部会への参加
【達成状況】 ・拠点病院等はがんの診断や治療、緩和ケア等に関する研修会の開催等により、医療水準の向上、地域医療機関との医療連携体制の整備を図った。 ・岡山県がん診療連携協議会及び各部会において、地域連携、相談支援、緩和ケア等に関する課題や取組状況について協議、情報共有を行った。
【今後の取組】 ・引き続き、拠点病院等において、研修会の開催等により、医療水準の向上、地域医療機関との医療連携体制の整備を図る。 ・連携協議会及び各部会において、引き続きがん診療の課題や取り組みについて情報共有を図る。

②放射線療法・薬物療法・手術療法及びチーム医療の推進

【個別目標】

- ・拠点病院等は、県民が安全かつ安心で質の高いがん医療が受けられるよう、手術療法、放射線療法、薬物療法等を効果的に組み合わせた集学的治療を実施する医療提供体制の強化を図ることを目標とします。
- ・拠点病院等は、がん患者とその家族のQOLの維持向上が図られるよう、入院や在宅での療養生活など、患者の状況に応じたサポートを提供できるような多職種によるチーム医療体制の整備を目標とします。

【県の主な取組】

- ・国から直接補助を受ける岡山大学病院と岡山医療センターを除く6つの拠点病院と2つの地域がん診療病院への運営費の補助

【達成状況】

- ・外来薬物療法受診患者数を数値目標としていたが、平成30年度から拠点病院等の現況報告の様式が変更となり数値の把握ができない。
- ・拠点病院等は、集学的治療を提供する体制を整備した。
- ・拠点病院等は、緩和ケアチームや口腔ケアチーム等の多職種からなる専門チームを組織した。

【今後の取組】

- ・拠点病院等において、手術療法、放射線療法、薬物療法を組み合わせた集学的治療を積極的に実施するとともに、手術療法、放射線療法、薬物療法による多職種でのチーム医療を提供する体制の強化を図る。

③がん診療ガイドラインに沿った医療の推進
【個別目標】 ・がん治療を実施している医療機関は、がん患者が質の高い治療を受けられるよう、最新のガイドラインに準じた治療を行うことを目標とします。
【県の主な取組】 ・国から直接補助を受ける岡山大学病院と岡山医療センターを除く6つの拠点病院と2つの地域がん診療病院への運営費の補助 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」に、日本癌治療学会のがん診療ガイドラインを掲載し、啓発を図った。
【達成状況】 ・拠点病院等は、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療を提供した。
【今後の取組】 ・拠点病院等は、引き続き、最新の診療ガイドラインに沿った治療が提供できるよう、がん医療従事者に対して研修会や合同カンファレンスを実施し、医療従事者の資質向上を図る必要がある。 ・各学会等の患者向けの診療ガイドラインや解説等の情報を、ホームページ等を活用し患者に提供する。

④がんと診断された時からの緩和ケアの推進
【個別目標】 ・どこに住んでいても適切に緩和ケアが受けられるよう、緩和ケア研修を修了した医師等を増やすことを目標とします。 ・緩和ケアが普及するよう、県民へ啓発することを目標とします。 ・緩和ケアを正しく理解する県民の増加を目標とします。
【県の主な取組】 ・岡山県医師会に委託して緩和ケア研修会及び緩和ケアフォローアップ研修会を開催した。 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」に、緩和ケアについて紹介したページを掲載し、県民への啓発を図った。
【達成状況】 ・緩和ケア研修会を修了した医師は着実に増加しており、目標値を達成した。
【今後の取組】 ・緩和ケア研修会を修了した医師等の目標値は達成したが、依然として医師以外の職種（看護師、歯科医等）及び拠点病院以外の地域の病院からの参加者は少ない。まずは緩和ケア研修会の認知を図るため、今後、県ホームページ等で普及活動を行い、幅広い職種及び地域の病院からの研修参加者を呼び込むように取り組む。

⑤地域における医療連携の推進
【個別目標】 ・拠点病院等とかかりつけ医との連携が円滑に行えるよう、地域連携パスの活用を進めることを目標とします。
【県の主な取組】 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」に地域連携パスの説明を掲載し、啓発を図った。
【達成状況】 ・5大がん地域連携クリティカルパスの利用件数は、500件を目標としていたが達成できなかった。 ・各拠点病院等における利用件数をがん診療連携協議会で共有するとともに、内容の更新を随時行っている。
【今後の取組】 ・病院によってクリティカルパスの利用件数に差があり、ほぼ利用していない病院もあることから、各がん診療連携拠点病院で構成されるがん診療連携協議会において、パスの在り方も含めた地域連携について検討を行う。

⑥在宅医療（療養）提供体制の構築
【個別目標】 ・がん患者が住み慣れた家庭や地域での療養を選択できるよう、急性増悪時における円滑な受入など在宅療養を支える医療機関の増加を目標とします。 ・自宅のほか老人ホーム等望んだ場所で最期を迎えることのできるがん患者とその家族の割合の増加を目標とします。
【県の主な取組】 ・医療介護多職種連携人材育成事業や医療介護連携体制整備事業等において、研修会を実施し、多職種連携による在宅医療提供体制の推進を図った。
【達成状況】 ・がんによる在宅死亡の割合は、平成 29 年以降、増加傾向にある。令和 5 年時点で 21.0%となり、目標値を達成した。
【今後の取組】 ・医療と介護に関わる職能団体の代表者等で構成する「岡山県在宅医療推進協議会」において、各職種の役割や多職種連携のあり方、各団体の取組等について協議し、協働に向けた合意形成と医療・介護関係団体間の連携を図る。 ・医療機関、県医師会等、介護関係団体、市町村等関係機関と連携を図りながら、県民が自分らしい療養生活を人生の最終段階まで含めて考え、家族等と話し合い、家族・関係者に希望を伝え、これをかなえる環境を整備する。そのために、医療・介護関係者と連携し、県民が自分らしい生活や人生の最終段階における生き方、生命の尊厳について考えるよう普及啓発を進める。

⑦がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成
【個別目標】 ・より質の高い医療が提供できるよう、がん医療に携わる医療従事者のさらなる資質向上及び専門看護師並びに認定看護師の養成を目標とします。
【県の主な取組】 ・岡山県看護協会が実施する地域包括ケア関係認定看護師（がん関係認定看護師を含む）等養成促進事業に必要な経費の一部を補助した。
【達成状況】 ・がん看護専門看護師数 19 名（令和 5 年 12 月末） ・がん関係の認定看護師（緩和ケア、がん化学療法看護、がん性疼痛看護、乳がん看護、がん放射線療法看護）、特定認定看護師（緩和ケア、がん薬物療法看護、乳がん看護、がん放射線療法看護）数 68 名。（令和 5 年 12 月末）
【今後の取組】 ・医療機関が負担する認定、専門看護師教育機関、特定行為研修機関への受講料及び派遣職員の代替として雇用された看護職員の人件費を助成することにより、専門看護師・認定看護師及び特定認定看護師の養成を支援する。

4 患者・家族への支援

①相談窓口の充実
【個別目標】 ・相談支援センターの周知を図り、がん患者が安心して相談できるようにすることを目標とします。 ・どこの相談支援センターで相談しても、等しく質の高い、専門的な相談支援が受けられることを目標とします。 ・がん患者とその家族及び身近な人を亡くされた方々への相談支援体制の充実を目標とします。
【県の主な取組】 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」でがん相談支援センターの紹介を行った。 ・ラジオを活用しがん相談支援センターの紹介を行った。 ・ピアサポータースキルアップ研修を開催するとともに、研修受講者の活動の場として、院内・院外のピアサポートも実施した。
【達成状況】 ・がん相談支援センターへの相談件数は、計画策定時に比べて約 3,000 件程度増加したが、目標値は未達成となった。 ・研修事業を通してピアサポーターの資質向上や、相談支援体制の充実を図った。 ・がん患者会への専門家派遣事業を通して、患者・家族の療養生活における相談や助言を行い、相談支援体制の充実を図った。 ・グリーフケアのあり方については、引き続き検討が必要。
【今後の取組】 ・がん相談支援センターにおいて、がんの病気や治療、今後の療養や生活への不安等の悩みを受診の有無にかかわらず、誰でも無料で相談できることなどを引き続き広く県民に周知する。 ・遠方に住むがん患者など、がん相談支援センターへの来所が困難な患者からの相談にも対応できるよう、オンライン等を活用した相談体制の整備を図る。 ・がん患者団体が実施する研修会、講習会等にごがん治療等の専門家を派遣し、専門的な助言を受けられるよう支援する。

②情報提供
【個別目標】 ・がんに関する情報を必要とする人が、必要な情報にアクセスできていることを目標とします。
【県の主な取組】 ・がんに関する情報をまとめたホームページ「岡山がんサポート情報」を開設し、岡山県のがん医療や療養等に関する情報を発信した。 ・岡山県のがん療養情報をまとめた冊子「岡山県がんサポートガイド」を作成し、拠点病院等で患者に配布した。また、令和５年度に改訂し、医科歯科連携、アピアランスケア、ＡＣＰ、小児・ＡＹＡ世代のがんに係る情報を新たに記載、追記した。
【達成状況】 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」のひと月の閲覧件数は、計画策定時に比べて１５０件程度増加し、令和４年度時点で１．５倍以上となったが目標値は未達成であった。
【今後の取組】 ・がん患者等が必要な情報にアクセスできるよう、ホームページの周知及び更新に努めるとともに、がん患者団体の活動について、ホームページ等を活用し周知する。 ・がん相談支援センターにおいて、がんの病気や治療、今後の療養や生活への不安等の悩みを受診の有無にかかわらず、誰でも無料で相談できることなどを引き続き広く県民に周知する。 ・改訂した「岡山県がんサポートガイド」をがん相談支援センターへ配布し、情報提供に取り組む。 ・がん患者向けのアピアランスケアについての説明用資材を作成し、がん相談支援センター１３か所で配布するとともに県ホームページにアピアランスケアに関する情報を掲載するなど、普及啓発を図っていく。

③患者会ネットワークの構築・強化
【個別目標】 ・患者団体間での交流や情報交換が図られるよう、患者団体のネットワーク強化を進めるとともに、患者団体の活動を支援することを目標とします。
【県の主な取組】 ・拡大がん患者会ネットワーク会議を開催し、がん患者会だけでなく病院や関係団体も含めた情報交換・意見交換を行った。 ・がん患者会への専門家派遣事業により、がん患者会が実施する研修会等へ専門家を派遣し、患者会活動を支援した。
【達成状況】 ・拡大がん患者会ネットワーク会議により患者団体間での交流や情報交換が行われた。 ・講師派遣を行うことで、患者会の要望に沿った支援を行った。
【今後の取組】 ・拡大がん患者会ネットワークを開催し、患者団体間での交流や情報交換を図る。 ・患者会への講師派遣を行い、患者団体の取組を支援する。

5 がん登録の推進

①院内がん登録の精度向上
【個別目標】 ・拠点病院等は院内がん登録により、がん診療の実態を把握し、がん診療の質の向上に努めます。
【県の主な取組】 ・院内がん登録の予後情報収集等において拠点病院等と連携を行うなど、精度向上に努めた。
【達成状況】 ・拠点病院等において、院内がん登録の精度向上を図った。
【今後の取組】 ・院内がん登録を活用し、治療の結果等を評価すること及び他の病院における評価と比較すること等により、がん医療の質の向上を図る。また、患者・家族等に対する適切な情報提供を行うため、より一層の精度管理に努める。

②がん登録データの活用
【個別目標】 ・がん登録で得られたデータを利活用することにより、効果的な施策を実施することを目標とします。
【県の主な取組】 ・全国がん登録情報の罹患率、死亡率、予後情報をがん対策協議会等に提供し、施策検討に活用した。
【達成状況】 ・2016年に全国がん登録精度に移行し、DC01.4%、DCN2.3%(2020年)と登録データの精度が向上した。 ・院内がん登録の予後情報収集等において拠点病院等と連携を行うなど、精度向上に努めた。
【今後の取組】 ・本県の地域がん登録は全国的に見ても精度が高く、DC0割合、DCN割合ともに一定の数値を維持できている。今後も精度の高い割合を確保し、がん登録データを活用した、がん検診の重要性の普及や、がん医療の質の向上等に努め、患者・家族等に対する適切な情報提供を行う。

③研究支援
【個別目標】 ・がん研究やがん対策に取り組む個人及び団体の研究・活動への支援が有効に行われることを目標とします。
【県の主な取組】 ・がん研究やがん対策に取り組む個人及び団体より、岡山県がん情報の提供申出があった場合は、速やかに審議会を開催、審議を行った上で情報提供するなど、研究・活動への支援を行った。
【達成状況】 ・がん研究やがん対策に取り組む個人及び団体の研究・活動を支援した。
【今後の取組】 ・引き続き、がん研究やがん対策に取り組む個人及び団体の研究・活動の支援を行う。

6 小児がん、AYA世代のがん対策

①小児がん、AYA世代のがんの医療提供体制の整備
【個別目標】 ・小児・AYA世代のがん患者とその家族が安心して適切な医療や支援が受けられる医療提供体制を構築することを目標とします。
【県の主な取組】 ・小児がん拠点病院である広島大学病院が開催する「小児がん中国・四国ネットワーク会議」に参加し、情報交換を行った。 ・子供を授かることを望む患者に対し、妊孕性温存療法及び温存後生殖補助医療に要した費用の一部を助成した。 ・がんに関わる医療従事者向けの妊孕性温存に関する研修会を開催した。
【達成状況】 ・「小児がん中国・四国ネットワーク会議」が設置され、医療機関同士の連携が図られた。また、妊孕性温存を望む小児・AYA世代のがん患者が、適切に妊孕性温存実施医療機関に繋がるよう、相談・紹介のフローが作成されており、適切な医療や支援が受けられる医療提供体制の構築が図られた。
【今後の取組】 ・小児がん拠点病院、小児がん連携病院、拠点病院等とかかりつけ医などの関係機関が連携し、小児・AYA世代のがん患者とその家族が安心して適切な医療や支援が受けられる体制の整備を目指す。 ・小児がん、AYA世代のがんを速やかに専門施設で診療するための情報提供や相談支援等の取組を進める。

②小児がん、AYA世代のがんに関する相談支援、連携体制の構築
【個別目標】 ・小児・AYA世代のがん患者とその家族が悩みなどについて気軽に相談でき、また必要な情報を得られるよう、計画期間中にその環境整備に取り組むことを目標とします。
【県の主な取組】 ・拡大がん患者会ネットワーク会議や、がん患者会への専門家派遣事業により、患者会活動を支援した。 ・岡山県のがん療養情報をまとめた冊子「岡山県がんサポートガイド」に子どもの療養、AYA世代のがんの説明を掲載し、啓発に努めた。 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、「岡山県がんサポートガイド」、ラジオ広報によりがん相談支援センターの紹介を行った。
【達成状況】 ・がん相談支援センターへの相談件数は、計画策定時に比べて約 3,000 件程度増加したが、目標値は未達成となった。 ・悩みなどについて相談できるようがん患者会への専門家派遣事業を通して患者会活動を支援した。 ・がん相談支援センターに関する広報を行い相談体制の周知を図った。
【今後の取組】 ・引き続き、がん相談支援センターに関する広報を行う。 ・AYA世代のがん患者は、個々のライフステージにより、異なる問題を抱えているため、ライフステージに応じた必要な情報を正しく入手できるよう、引き続き、ホームページ等を活用し研修等の情報提供を行う。

7 がんの教育・普及啓発

①学校におけるがんの教育の充実
【個別目標】 ・がんの予防、早期発見が進むよう、児童、生徒等へのがんの教育のあり方について検討することを目標とします。
【県の主な取組】 ・がん教育普及推進研修会を開催した。(R5.11) ・外部講師リストを作成した。
【達成状況】 ・がん教育の充実に資するため、教職員対象の研修会を開催した。 ・医療関係者やがん患者会の方などによる外部講師リストを作成し、希望する学校へ講師を派遣する体制を構築した。
【今後の取組】 ・小学校、中学校、高等学校それぞれの発達段階に応じて、保健教育のほか、学校教育活動全体を通じて「がんについての正しい知識」と「健康や命の大切さ」について理解を深め、自ら実践できるようにする。 また、教職員対象の研修において、がん教育の意義や外部講師の積極的な活用について触れ、がん教育の推進を図る。

②がんを正しく理解するための普及啓発
【個別目標】 ・がんの予防、早期発見・早期治療を進め、がんへの誤解がなくなるよう、より多くのがん患者とその家族、県民へ正しいがんの知識が広まることを目標とします。
【県の主な取組】 ・がんに関する情報をまとめたホームページ「岡山がんサポート情報」や、岡山県のがん療養情報をまとめた冊子「岡山県がんサポートガイド」でがんの病気や治療等に関する情報を掲載した。 ・乳がん・子宮頸がん検診の必要性等について、県民の理解を広めるために出前講座を各保健所で実施した。 ・がん征圧岡山県大会を開催した。(R5.9)
【達成状況】 ・出前講座や講演会等により、がんに関する普及啓発を実施した。 ・がん征圧岡山県大会を開催し、がん予防に関する正しい知識の普及啓発や早期発見・早期治療のための検診勧奨、関係機関・団体等の組織強化を図った。
【今後の取組】 ・乳がん・子宮がん検診受診促進事業や、民間事業者に対する普及啓発事業など、多くの事業で、講演会の開催、資料の配付、広報などを通じて、がんの予防、早期発見・早期治療等の普及啓発に取り組んだ。がん患者とその家族、県民ががんを正しく理解する環境は整備されてきているが、一方でがん検診受診率の低さや緩和ケアについての理解が不十分であるなどの課題もあるため、出前講座等により、引き続き正しいがんの知識の普及啓発に取り組む。

8 がんになっても自分らしく生きることのできる地域共生社会の実現

①治療と職業生活の両立を支援するための取組
【個別目標】 ・がん患者が治療を受けながら働くことができる職場環境づくりを目標とします。 ・がん患者が診断時から治療と就労を両立するために必要な情報の提供や相談支援が受けられる体制の整備を目標とします。
【県の主な取組】 ・岡山労働局が設置した「岡山県地域両立支援推進チーム」へ参画し、関係団体と連携し、両立支援の取組みを実施した。 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」で治療と仕事の両立支援に関する情報を掲載し、啓発を図った。 ・令和5年度に「岡山県のがん患者の就労・療養に関するアンケート調査」を実施した。
【達成状況】 ・多くの拠点病院で、ハローワークや産業保健総合支援センターと連携した就労相談が定期的に開催された。 ・アンケート調査において、がんと診断された後の就労の変化について、自営業の方は、休業や事業の縮小、廃業等の影響、自営業以外の方は、依願退職、休職、解雇等の影響があったとの回答が多くあった。
【今後の取組】 ・経済団体に対して医師・社労士などによる研修会を開催し、がんに対する正しい知識を普及啓発する。 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」を活用しがん相談支援センターを周知する。

②ライフステージに応じたがん対策
【個別目標】 ・小児・AYA世代のがん患者・経験者とその家族に対して、利用可能な制度や相談機関等の周知を図ることを目標とします。
【県の主な取組】 ・関係団体の支援事業について拠点病院へ周知するとともに、冊子「岡山県がんサポートガイド」に、患者会や相談支援センター、利用できる制度等を掲載し、啓発を図った。 ・小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について、ホームページ「岡山がんサポート情報」で掲載した。
【達成状況】 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や冊子「岡山県がんサポートガイド」を通して利用可能な制度や相談機関等の周知を図った。
【今後の取組】 ・引き続き、ホームページ、ラジオ広報等を通して利用可能な制度や相談機関の周知を図る。